

次世代自動車センター浜松 活動レポート Vol.317

■ デジタルものづくり対応支援事業 サイバーセキュリティ対策ワークショップ（会員限定）

近年のデジタル化の進展に伴って、外部からのサイバー攻撃による工場の操業停止や個人情報流出などの被害が急増しています。

製造業においても、仕入先の部品メーカーが被害を受けたことにより完成車メーカーの生産が停止するなど、サプライチェーン全体に影響する事例も発生しており、サイバーセキュリティ対策の強化が急務となっていますが、多くの中小企業では「自社のような規模の企業は大丈夫」「具体的に何をしたらよいかわからない」などの理由で、対策・対応が遅れています。

次世代自動車センター浜松では、昨年度に引き続き、当センターの仲元技術コーディネーターが講師となって、サイバー攻撃対応の机上演習やサイバーセキュリティBCPの模擬策定演習を内容として、「サイバー攻撃が発生した場合に迫られる対応」や「サイバー攻撃の被害の低減や復旧の迅速化のための対策の立て方」などについて、参加企業の皆様が自ら考えながら学ぶ「サイバーセキュリティ対策ワークショップ」を開催しました。

■ 日 時 : 2025年10月14日（火）13時30分～16時30分

■ 場 所 : グランドホテル浜松

■ 参加者 : 15社／30名

<開会・挨拶>



<グループワーク1:サイバー攻撃対応机上演習>



<グループワーク2:サイバーセキュリティBCPの策定演習>



<質疑・感想>



<総括>



【参加者の声】

（全体）

- ・今までぼんやりとしていた知識を体系的に整理することができた。
- ・バックアップデータが感染したらどうすればよいのかという気づきがあった。復旧までは手作業が必要ということも実感できた。
- ・具体的に事前準備を行うことの重要性の気づきがあった。
- ・事例を元に考えさせられた。当社の弱い部分を発見できた。実際の業務につなげる。
- ・実際に取り組むべき課題が明確になった。
- ・いざ問題が起きた時にどのような対策、対応をとるべきか確認できた。
- ・事業継続のための活動で重要度が確認できた。
- ・自社のシステムで優先度があいまいだったので解決できた。
- ・BCPについて必要な体制づくりや事前の備えの必要さが説明されていた。
- ・未然防止以外に、復旧プロセスの整備、訓練が重要と学んだ。
- ・ワークショップのため、グループや社内で話し合うことは良かったと感じた。
- ・サイバーセキュリティに対して何かしなければという意識はあったが、ふわっとしていたイメージが何をやるべきなのか明確になってよかった。

（グループワーク 1）

- ・自分一人では思い浮かばない意見を聞くことができた。
- ・考え方の手順がわかった。
- ・“ケーブルを抜け”を合言葉のように言っていたが、Wi-Fi 停止は考えていなかった。教育に組み込みたい。
- ・登場人物が多く混乱したが、自社も同じ状況なので今一度整理したいと思った。
- ・対応のための体制の手引き、教育の必要性が理解できた。弊社は小さな会社だが、対応が必要になっていくと感じた。
- ・事前準備の大切さが理解しやすい内容になっていた。
- ・具体的な事例で学べたのでイメージがわいた。
- ・準備が全てと学んだ。
- ・サイバー攻撃を受けた時にどうなるか具体的な例で想像できた。
- ・模擬でもサイバー攻撃の事例や対応策をエピソード仕立てで学ぶことができて、わかりやすかった。
- ・他社さんとこういった話をする機会がないので良い刺激になった。
- ・自身に置き換えて考えてみて、どうふるまえば良いかを考えることができた。

（グループワーク 2）

- ・自社のシステムの確認ができた。
- ・自社のシステムについて重要性を勉強できた。
- ・BCP にサイバーセキュリティも含め推進し定例化する。実行していく。
- ・把握できていない部分が判明した。
- ・意識を改める良い機会になった。
- ・事前に決めるべきことが多いことに気づいた。
- ・社内で何が重要か話すことができた（再確認ができた）。
- ・自社の体制、関連している分野を見直しすることができた。
- ・バックアップの重要性を理解できた。
- ・考え方や洗い出しのやり方がよくわかった。
- ・BCP において組織として必要なことが説明されていた。
- ・優先順位を改めて考えることができた。